



研究者名※	吉村雅美	学位※	博士(文学)
所属※	文学部 史学科	職名※	准教授
連絡先	yoshimuram@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	<a href="https://researchmap.jp/7000017216">https://researchmap.jp/7000017216</a>		
研究分野※	人文・社会／日本史		
研究キーワード※	近世史・交流史・地方史		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2009年4月～2011年3月「近世平戸における対外関係と地域再編—平戸藩士・浦方の編成とその意識を中心に—」(研究代表者、日本学術振興会科学研究費補助金、特別研究員奨励費)</li> <li>・2012年4月～2015年3月「近世対外関係をめぐる「武」意識と「藩」意識の展開—十八世紀の平戸藩を中心に—」(研究代表者、日本学術振興会科学研究費補助金、特別研究員奨励費)</li> <li>・2015年4月～2019年3月「近代移行期における「音」と「音楽」—グローバル化する地域文化の連続と変容—」(研究分担者、日本学術振興会科学研究費補助金、基盤研究B)</li> <li>・2019年4月～2023年3月「近世近代移行期の日本における儒学・洋学受容と対外認識の形成—平戸藩を中心に—」(研究代表者、日本学術振興会科学研究費補助金、若手研究)</li> </ul>		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2013年6月～2014年5月 歴史学研究会近世史部会運営委員長</li> <li>・2014年6月～2016年5月 歴史学研究会委員(2015年6月～2016年5月 編集幹事)</li> <li>・2015年4月～2018年3月 青森県史編さん近世部会調査研究員</li> <li>・2017年12月～現在 歴史評論編集委員</li> </ul>		
受賞歴			

研究領域	日本近世史	(SDGs)
研究テーマ※	近世日本における対外認識の形成と学問	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 近世日本における対外認識の形成について、平戸藩を中心に研究している。主に次の3点から考察している。</p> <p>①地域意識の形成 平戸の藩士や町人が作成した史料を検討し、近世初期の対外交渉に関する記憶が地域の中でどのように受け継がれ、家や地域の自己認識にいかなる影響を与えたのか、検討している。</p> <p>②江戸における学問・知識受容 近世後期の平戸藩主松浦清(静山)を中心に、江戸における幕臣・知識人との交際を通して、大名家がどのように学問や知識を受容したのか検討している。清(静山)の書物目録のほか、清の側室である蓮乗院に関する記録も用いることで、奥の女性も含む交際関係のなかで、学問・知識受容の具体像を解明することを試みている。</p> <p>③近世近代移行期の対外認識 明治初期の松浦家当主・旧平戸藩士の書翰や著作から、彼らの儒学・洋学との関わりについて検討している。そして、近世後期に受容された学問が、近世近代移行期の対外認識に与えた影響について考察している。</p> <p>【応用例、研究の展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や大名家において蓄積された知識が、藩や幕府の対外認識や対外政策に与えた影響を明らかにする。これにより、地域史・藩政史・幕政史と対外関係史の架橋を試みる。</li> <li>・明治期における対外関係史・貿易史研究の背景について、近世後期の学問との関わりの中で考察し、近世・近代における学問状況の連続性と相違を明らかにする。</li> </ul> <p>【研究方法の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークを行い、地域史料の調査成果を生かした研究を行っている。</li> <li>・史料として、古文書のほかにオランダ語の洋書も対象とし、複数言語による研究を試みている。</li> </ul>	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉村雅美『近世日本の対外関係と地域意識』(清文堂出版、2012年)</li> <li>・吉村雅美『近世日本における対外関係の変容と「藩」意識』(『歴史学研究』937号、2015年)</li> </ul>	
共同研究・外部機関との連携への期待		